

大篠津小学校 ～思いやりの心を育てる教育～

本校福祉教育の目標

本校教育の基本である愛労教育の実践を通して、人間尊重の精神や思いやりの心を育て、自主的・自発的に実践活動を行い、明るく楽しい学校や住みよい社会を築いていこうとする大篠津の子を育てる。

委員会の取り組み①

「赤い羽根共同募金」

幸せ運ぼう委員会の取り組みの一環として、児童が中心となって企画、運営を行った。「自分の町をよくしよう」を目的に、ポスターを作成したり校内放送で全校児童に呼びかけたりして、募金活動に取り組んだ。



委員会の取り組み②

「よいところレディオ」の 取り組み

すみよい学校委員会の取り組みの一環として取り組んだ。全校児童が、友だちの素敵などころを書いた用紙を回収し、給食時間の放送で紹介した。全校から児童のよいところがたくさん集まり、友だちのよさに全校児童が気付くことができた取り組みになった。



委員会の取り組み③

「花を増やそう」の取り組み

幸せ運ぼう委員会の取り組みの一環として、緑の羽根募金の一部で、花の苗を買い、児童玄関や職員玄関前で花を育てる活動を行った。土作り、苗植え、水やり等を行い、積極的に取り組んだ。



「愛労あったか集会」の取り組み

本校では、毎年、地域の方に感謝の気持ちを表す「愛労あったか集会」を行っている。日頃から、学習や生活、行事等でお世話になっている地域の方を招き、お礼を伝えたり、お手紙を読んだり、楽しいひと時を過ごした。児童は、一連の活動を通して、地域の方たちに見守られ、お世話になっていることに改めて気付いたり、実感したりすることができた。地域に感謝し、地域の方とのつながりを大切にする取り組みとなった。



4年生

「高齢者、車いす体験」の 取り組み

総合的な学習「福祉について調べよう」の学習のなかで、手話や車いす体験、高齢者疑似体験を行った。手話学習は、手話普及コーディネーターの方に来校していただき、自分の名前やあいさつの表し方を教えていただき、体験することができた。車いす体験、高齢者疑似体験では、地域包括センターの方にお世話になり、様々な体験を行った。児童は、車いすで過ごしたり、高齢者が体の動きを体験する中で、周りにある不便なことについて考えることができた。体験活動を通して、自分できることを考えることができた。



5年生

「ユニセフ募金」の取り組み

総合的な学習「世界の国々について考えよう」の中で、ユニセフ協会の方に来校していただき、すべての子どもたちに衣食住が保障され、未来への希望がもてる社会をめざし活動しているという話を聞いた。世界には、災害や紛争等により生命の危機にさらされている子どもたちがいるという現実に関心し、自分たちにできることを考え、募金活動を行った。



PTA人権部「ありがとうの木」の取り組み

PTA人権部の会合の際、「子どもとの関わりを大切にしたい。」という意見がでて、我が子のよさやありがとうの気持ちを伝える活動を考えた。それが、「ありがとうの木」である。「ありがとうの木」を学校に掲示することで、児童が家族の思いに気付くことができた。児童は、うれしそうに「ありがとうの木」を見ていた。そして、今度は、児童から家族への「ありがとうの木」に発展した。児童は、家族に感謝の気持ちを伝えようと熱心に考え、書くことができた。



〈家族から子どもたちへ〉



〈子どもたちから家族へ〉